

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育スクールjump (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 22日		R8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 4人
○従業者評価実施期間	R7年 12月 23日		R8年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「通所を楽しみにしている」というところから、身体を動かす→楽しい→もっとやってみたくて自己肯定感を高める支援ができていと思う。	楽しく身体を動かすことができるように、ゲーム性のあるものを取り入れ、個々に合わせてスモールステップで取り組めるよう工夫している。	スタッフが他のスタッフの指導の様子を見て感想を述べたり、一緒に振り返りを行ったりする時間を設ける。
2	少人数で行っているため、その日の利用児の状況に合わせて個別に支援を行うことができている。	特性を理解しつつ声掛けのタイミングやを工夫している。	講習会や研修への参加により、スタッフの支援技術の向上をはかりたい。
3	支援後には保護者に支援の様子を丁寧にお伝えすることができている。	支援終了後に、上手くいった声掛けや成功した支援を具体的に伝えている。 例えばどのような事がきっかけで癇癪が起きるのかなど、その日の様子から分析し、保護者と共有したり家庭や園での様子を聴いたりしながら一緒に考えることができている。	園での様子を見学したり、先生から様子を聞いたり、情報を共有し合える関係性の構築。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個室が無いので、個別に対応していても環境的に完全に分離しての支援ができない。	相談室、休憩室はあるが、その中で個別に身体を動かせるスペースはない。	広い空間を仕切って活動する。 活動の場所を分ける(屋外と室内)など。
2	週1回、50分の支援の為に、スタッフとの信頼関係を築くのに時間がかかる。	支援時間が短く、1週間に1回と期間もあくため。	「〇〇をしたことが楽しかった」と児童が具体的に伝えることができるよう、児童の記憶に残る密な関わり方をしていく。
3	スタッフの知識や技術の不足。	保育士もいるが、すべての職員が例えばトイレの付き添いなどの場面において手際よくこなせるわけではない。	幼児の生活全般において「かもしれない」という予測が立てられるように知識をつけ、日常的に意識を高めて観察する等心がけていけると良い。